

2020年11月29日

アドベント第1週礼拝説教要約

神の時の中で

(詩篇90・1〜17)

一、根底に神への信頼が

1節で詩人は「主よ 代々にわたって あなたは私たちの住まいです。」と歌っています。ここには、詩人の神に対する揺るがない信頼があります。「主なる神こそ、神に信頼を置く者にとっての避け所である」という思いが表れています。続いて、2節です。「山々が生まれる前から 地と世界を あなたが生み出す前から」といふことから「しえまで あなたは神です。」と、神をほめたたえています。この言葉からは、永遠に変わらない神が思い起こされます。神は、人間の想像の産物、あるいは人間の欲望を投影した存在ではなく、天地万物を造られる前から神であられるお方です。90篇の作者は、主である神に絶対的な信頼を置いています。これさえ押さえておけば、90篇の意味を取り損なうことはありません。

二、神の永遠性と人間

神と人とを比べることはできません。3節をご覧ください。「あなたは人をちに帰らせませす。」「人の子らよ 帰れ」と言われます。」とあります。どんなに屈強な人間であっても、永遠に生きる

人はいません。やがては死を迎え、大地のちに帰ります。続いて、4節です。

「まことに あなたの目には 千年も昨日のように過ぎ去り 夜回りのひと時ほどです。」とあります。神は永遠人間はいつときの存在であって、比べられません。5節、6節をご覧ください。「あなたが押し流すと 人は眠りに落ちます。朝には 草のように消えています。朝 花を咲かせても 移ろい夕べには しおれて枯れています。」とあります。神の永遠性に対して、人は、太刀打ちできない ほかない存在なのです。ですが、詩人は人生を否定的に捉えているのではなく、肯定的に捉えています。なぜなら、永遠なる神を信じ、主を「避け所」、また「住まい」と捉えているからです。

三、罪の中にある私たちを

詩人は、自分たちの罪を知っています。罪とは、思ふこと、願うことが、神の御思いからずれていることです。7節をご覧ください。「私たちはあなたの御怒りによって消え失せ あなたの憤りにおじ惑います。」と語っています。この言葉だけを見ると、詩人がどういう意味合いで語っているのか、戸惑いますが、1節、2節で告白していますように、神の恵みによって、神に絶対的な信頼を寄せています。否定的なおもむきは全く感じられません。詩人は自分

たちの罪、すなわちイスラエルの罪を意識しています。8節をご覧ください。

「あなたは私たちの咎を御前に 私たちの秘め事を 御顔の光の中に置かれませす。」と語っています。「私たちの咎」は、どちらも、人間の罪を指しています。神に信頼を置いているがゆえに、自分たちが主の御意思に適っていない者であることが良く分かるのです。さらに、9節です。「私たちのすべての日は あなたの激しい怒りの中に消え去り 私たちは 自分の齢を 一息のように終わらせませす。」と。前後関係を考えないで、ここだけを

読んだら誤解します。詩人には、神への信頼があります。だから平気で、「私たちのすべての日は あなたの激しい怒りの中に消え去り」とまで語ることができた、と受け取ることが大切です。そして、10節は有名な聖句です。「私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。そのほとんどもは 労苦とわざわいです。瞬く間に時は過ぎ 私たちは飛び去りませす。」と。神の恵みに生かされませす、否定的な暗雲が消え去ります。順境の日も、逆境の日も、神の善きご計画の中に歩んでいるという確信をいただくからです。一つ飛ばして、12節をご覧ください。「どうか教えてください。自分の日を数えることを。そうして私たちに 知恵の心を得させてください。」と、詩人は語っています。私たちは、自分が

どのくらい生きるのか、命は神のものですから分かりませせん。ですが、主を住まいとしているなら、労苦と災いの中に神の見えない御手が動いている、と受け止めることができます。それを知るが「知恵」です。

四、神に祈る

神を信じる者は、祈りに導かれます。13節です。「帰って来てください。主よ いつまでなのですか。あなたのしもべたちを あわれんでください。」と、祈っています。神を信じ、神に信頼するとは、神に祈ることです。人生の要所要所において、「助けてください」と訴えるように祈ることです。「神さまを信じているから大丈夫です」と思うだけでなく、祈る必要があります。最後に、17節をご覧ください。「私たちの神 主の慈愛が 私たちの上にありますように。私たちのために 私たちの手のわざを 確かなものにしてください。どうか 私たちの手のわざを 確かなものにしてください。」とあります。特に、後半のくり返しの言葉は強調点なのであります。神に喜ばれる人生になるか否かは、神によりませす。努力することもある事ながら、努力する前に神を知り、御霊に導かれて歩むことが大切です。私たちは祈ったら良いです。「神さま。どうか、私たちの手のわざを祝福してください」と。